

連合北海道第26回女性委員会定期総会



2015年10月3日（土）、TKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前において、連合北海道第26回女性委員会定期総会が行われました。総会には10産別3地区から26名の代議員の出席があり、議長には情報労連の金子ユリさんが選出されました。

冒頭、女性委員会の山田悦子委員長が主催者を代表して「企業にとっては高齢化などで若い人の働き手がないという問題が起こっている。時給をあげれば人が集まるというのではなく、むしろ、年休をとりたいたきにとれるとか、やりがいがあるとか、そういうことの方が重要である。組合がちがうとそれぞれ課題も違うが、様々な職場の人が話し合える場が連合である」とあいさつしました。連合北海道の渡辺直志男女平等局長からは、10月8日発効の最低賃金引き上げの件と政治闘争の重要性について挨拶がありました。

総会には多数の民主党北海道女性議員が来賓として出席しました。平出陽子道議は、「道内には女性議員がゼロの市町村もある。女性議員を増やしてほしい」と訴えました。

議事では、第1号議案2015年度活動の総括と第2号議案2016年度活動方針が提案されました。提案者から、2015年度は男女雇用機会均等法が成立して30年になることから改めて均等法の歴史と意義を学ぶ学習を行ったこと、働く者の声を政治へ反映させるために女性議員との連携を行ってきたことなどの説明がありました。また2016年度運動方針では、男女がともに働きやすい職場環境の整備を行うため引き続き集会や学習会を行っていくことや、情報交流のため「連合北海道女性委員会ニュース」を発行するので各産別や地協でぜひ活用してほしいという提案があり、第1号・第2号議案ともに承認されました。

続いて、産別報告に移りました。森林労組からは、山本和人青年女性委員会委員長が、「森林労組は林野庁の組合で、男性が多い職場である。国有林での業務は危険が多く、ヘルメットや長靴を着用するが、支給されるものは女性職員のサイズに合わず、改善の要求をしてきている」と、職場の実態や組合の取り組みを報告しました。このほか、自治労女性部の高野倫子副部長、小樽地区連合女性委員会の細田乃里子事務局長、北教組女性部の佐々木清美・松本由記両常任委員から、それぞれ学習会などの活動について報告がありました。



最後に2016年度女性委員会役員体制について提案があり、満場一致の拍手で承認されました。退任する幹事の西岡円さん（電力総連）、松木有紀さん（自治労）と、新任の事務局次長金子ユリさん（情報労連）、幹事の吉岡周子さん（電力総連）からあいさつがありました。

議長のスムーズな進行のもと今後の活動について確認され、総会は終了しました。